

月刊しばうら

2023年 1月号

謹んで新年のご祝詞を申し上げます
旧年中は格別のご厚情にあずかり
心より御礼申し上げます
本年もなお一層のお引き立てを賜りますよう
お願い申し上げます

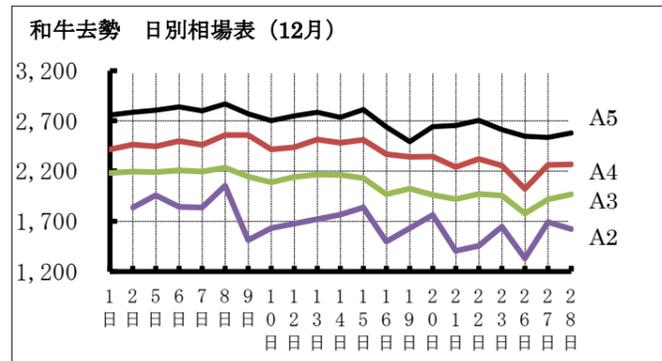
令和五年元日

牛肉営業部

＜12月の相場動向＞

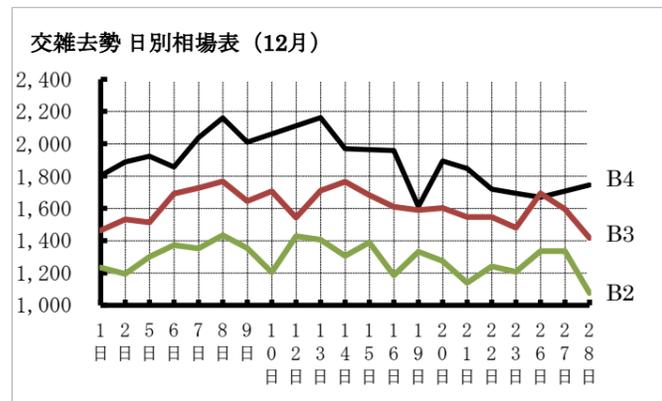
最需要期である12月の需要回復、拡大に期待が高まったものの、新型コロナウイルスの新規感染者数は増加傾向にあり、また広範囲に及ぶ品目の価格上昇や、エネルギー価格の高騰を受け、消費者の生活防衛意識が高まり、期待されたほどの需要回復、拡大に至らなかった。

また、冷凍保管事業による原料消化から、冷蔵需要が頭打ちになっていると考えられ、和牛相場は大きな上昇を見せず、2、3等級については前年、前月を下回る結果となった。交雑種3、4等級の相場については前年、前月を上回った。物価上昇の中、ダウントレンドの品種へのシフトや、輸入牛肉の減少に伴い、代替需要として交雑種需要の拡大につながったと考えられる。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,732 円	-134 円 95.3%	57 円 102.1%
A4	2,417 円	-184 円 92.9%	22 円 100.9%
A3	2,076 円	-299 円 87.4%	-98 円 95.5%
A2	1,646 円	-395 円 80.6%	-294 円 84.80%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,894 円	168 円 109.7%	165 円 109.5%
B3	1,607 円	26 円 101.6%	89 円 105.9%
B2	1,289 円	-59 円 95.6%	-48 円 96.4%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	1,120 円	7 円 100.6%	153 円 115.8%

＜1月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、11月の輸入量は前年同月比7.5%減の3万9,484tで、うちチルドは7.2%増の1万7,636tとなった。フローズンは、前年同月比16.8%減の2万1,812tとなった。

農畜産業振興機構によると12月の牛肉輸入数量は、前年同月比9.0%減の4万1,600t(チルド15.8%減・冷凍3.1%減)、1月は1.5%減の3万9,800t(チルド1.1%増・冷凍3.1%減)で予測している。1月のチルドの輸入量は前年同月の米国産、豪州産の輸入量が少なかったためわずかに上回ると予測、冷凍は冷蔵同様の国内需要の低下等を見込み、前年より減少すると予測している。

輸入牛肉通関量		11月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,016	6,094	98.7%
	米国	9,662	8,121	119.0%
	その他	1,958	2,234	87.6%
	合計	17,636	16,449	107.2%
フローズン	豪州	8,289	11,246	73.7%
	米国	7,803	7,593	102.8%
	その他	5,720	7,363	77.7%
	合計	21,812	26,202	83.2%

出典：食肉速報

単位：t

＜1月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による1月の出荷予測頭数は、全体で前年比102.1%の8万3,400頭で、品種別にみると和牛は1.0%減の3万4,700頭、交雑種は14.7%増の2万1,400頭、乳用種は2.3%減の2万5,900頭と予測している。

東京食肉市場の1月のと畜頭数は6,350頭を予定しています。

＜1月の牛枝肉相場見通し＞

例年1月は、年末年始の出費への反動から、牛肉需要の低迷期に入ることに加え、新型コロナウイルスの感染再拡大が懸念され、外食産業などにおける牛肉需要の低迷が予想される。和牛相場については、年末年始より一段下がり、かつ等級格差が縮まる展開が見込まれる。

牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,550～2,800	B4	1,600～1,800
A4	2,300～2,500	B3	1,400～1,550
A3	2,150～2,250	B2	1,250～1,350
A2	1,950～2,100		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

豚肉営業部

11月の全国と畜頭数は、前年同月比1.3%減の148万3,885頭。また、11月の豚肉通関数量は8万7,956t(前年同月比12.8%増)と前年を上回り、前月比は16.0%の大幅な増加となった。内訳はチルドが4万2,216t(23.6%増)、フローズンは4万5,740t(3.1%増)となった。

2021 - 2022年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
11	82,305	78,461	21,604	154,751	81,908	85,158
12	82,143	74,466	22,912	145,676	80,677	83,541
1	79,561	82,518	23,226	154,046	79,136	74,148
2	73,703	71,813	23,161	156,035	73,664	69,824
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
4	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
5	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
6	73,206	89,288	21,153	192,277	74,366	73,970
7	67,448	83,013	21,249	200,051	67,235	75,239
8	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
9	72,682	72,520	19,371	204,472	73,540	76,014
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
比	99%	112%	87%	126%	100%	104%

比：最終月の前年同期比 出典：農畜産業振興機構 単位：t

11月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	18,275	110.9%	デンマーク	9,875	124.2%
カナダ	20,495	127.5%	スペイン	12,602	97.8%
メキシコ	3,420	213.0%	メキシコ	6,968	82.6%
			アメリカ	2,235	105.3%
			カナダ	2,238	95.0%
合計	42,216	123.6%		45,740	103.1%

単位：t

＜12月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	71,200	558	558	750
2日	69,000	566	555	979
5日	70,300	576	570	731
6日	70,300	586	576	881
7日	68,700	594	566	667
8日	70,200	575	557	762
9日	66,700	566	553	929
平均	69,486/日			814/日

全国と畜頭数が7万頭前後と安定したことで、相場は落ち着いた展開となった。本格的な冷え込みにより、鍋物需要が好調であったことで豚肉の引き合いが増え始めたが、相場の上昇には至らなかった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10日		554	547	772
12日	70,000	545	537	936
13日	71,200	554	547	907
14日	70,100	561	539	798
15日	73,000	553	536	744
16日	71,400	564	558	984
19日	69,300	557	554	702
平均	70,833/日			835/日

年末に向けた手当のピークを迎える時期だが、相場は引き続き500円台半ばで持ち合いの展開となった。鳥インフルエンザが全国で猛威を振るい、鶏肉価格が上昇傾向となったことに加え、為替が円高に振れたことで、輸入ポークの引き合いも増え始めた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	73,100	587	586	990
21日	74,700	599	580	924
22日	75,400	582	566	984
23日	70,000	538	518	1,179
26日	72,800	566	561	794
27日	70,600	598	573	890
28日		562	522	893
平均	72,767/日			951/日

全国と畜頭数が7万頭を上回る日が続いたが、年末この時期にしては決して多くない状況となった。また、上物相場が600円を超える日がなく、全体的に落ち着いた年末になった。

＜1月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和5年1月の肉豚出荷予測では142万2,000頭(前年比99.5%)と予測している。当市場の1月集荷予定せり頭数は1万6,500頭、1日あたりでは約916頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると1月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万8,200t(前年同月比94.8%)、内訳は冷蔵輸入量が3万5,500t(同91.3%)、冷凍輸入量は4万2,700t(同97.9%)と予測。

冷蔵品輸入量は、カナダにおける洪水の影響から通関がずれ込み、輸入数量が多くなった前年同月と比較し、大幅に下回ると予測する。一方、3ヵ月平均は前年同期をわずかに上回ると予測する。

冷凍品輸入量は、北米産の現地価格の高止まりや、為替の影響により前年同月をわずかに下回ると予測する。また、3ヵ月平均も前年同期をわずかに下回ると予測する。

例年1月は、年末年始の出費への反動から、需要が鈍る時期となるが、上旬は年明け後の補充買いにより、ある程度底堅い相場展開が予想される。中旬以降は需要が落ち着き、下げ基調で推移することが予想されるが、未だ終息しない鳥インフルエンザ感染拡大の影響による鶏肉の高市況によって、豚肉の引き合いが強まる可能性がある。

供給面では今後さらに気温が低下することで、増体不良を起こし、下旬にかけて出荷頭数が減少傾向となる見込みだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は550円前後、中物平均価格は530円前後の展開と予測する。

